

令和3年度食育推進一校一実践 参考事例 掲載学校

	掲載学校	ページ
1	甲府市立東中学校	1～2
2	南アルプス市立白根東小学校	3～5
3	北杜市立須玉中学校	6～7
4	甲州市立大藤小学校	8～9
5	甲州市立塩山中学校	10～11
6	市川三郷町立大塚小学校	12～13
7	富士吉田市立吉田小学校	14～15
8	富士吉田市立明見中学校	16～17
9	上野原市立島田小学校	18～19

### 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲府市立 東中学校	校 長 名	鈴木 仁
-------	-----------	-------	------

児童生徒の課題

<p>特別支援学級に生徒が8名（1年が1名、2年が3名、3年が4名）在籍している。そのうち、特定の野菜が苦手な生徒や野菜のでき方を知らない生徒、さまざまな食材を知らない生徒がいる。</p> <p>また、特別支援学級に在籍している生徒にとって食に関わる体験（栽培や収穫体験・調理体験）や植物の観察などに関する学習は必要である。</p>
--

実 践 名	「野菜を育てて、観察して、食べよう」
目 標	野菜の栽培・観察・調理の体験を通して、食べ物に対する興味・関心を高めるようにする。
目標指標と数値	野菜の収穫体験を3回、収穫した野菜を使った調理実習を2回、野菜の観察を1回行うようにする。ただし、調理実習については簡単な作業を個別に行うことで、感染予防に努める。
実施予定日 ・実施予定期間	令和3年4月～令和4年2月の期間
対 象	特別支援学級所属生徒
指導場面	自立の時間、理科・美術・家庭の授業のなかで実施する。
指 導 者	特別支援学級担任および支援員、理科・美術・家庭の教員
具 体 的 な 内 容	
<p>○自立の時間 「畑の準備をしよう」「野菜の苗を植えよう」「野菜を育てよう」「野菜を収穫しよう」 「収穫したものを味わおう」「収穫した野菜を使って調理しよう」</p> <p>○理科の授業 「野菜の花・葉のつくりを観察しよう」「野菜の果実はどこにできるか考えよう」</p> <p>○美術の授業 「野菜をスケッチしよう」</p> <p>○家庭科の授業 「収穫したものを使って調理しよう」</p>	
評価方法	収穫回数・調理実習の回数・観察回数の回数 野菜の喫食状況（好き嫌いせず食べることができているか）

(作成者名 原 和恵 校務分掌等 給食主任 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲府市立 東中学校	校 長 名	鈴木 仁
-------	-----------	-------	------

実 践 名	「野菜を育てて、観察して、食べよう」
目 標	野菜の栽培・観察・調理の体験を通して、食べ物に対する興味・関心を高めるようにする。
目標指標・数値	野菜の収穫体験を3回、収穫した野菜を使った調理実習を2回、野菜の観察を1回行うようにする。ただし、調理実習については簡単な作業を個別に行うことで、感染予防に努める。
実践後の数値 (評価方法)	○収穫回数6回・調理実習の回数2・観察回数の回数2 ○野菜の喫食状況(好き嫌いせず食べることができているか) 苦手な野菜を食べようとする姿勢はあまり見られない。食べてみるように声をかけるが、初めから手を出さない傾向がある。好みの味付けにすることで野菜を食べるので、工夫が必要である。
実施日 ・実施期間	令和3年4月～令和4年2月の期間
対 象	特別支援学級所属生徒
指導場面	自立の時間、理科・美術・家庭の授業のなかで実施する。
指 導 者	特別支援学級担任および支援員、理科・美術・家庭の教員
具 体 的 な 内 容	
<p>○自立の時間 「畑の準備をしよう」「野菜の苗を植えよう」「野菜を育てよう」「野菜を収穫しよう」 「収穫したものを味わおう」「収穫した野菜を使って調理しよう」</p> <p>○理科の授業 「野菜の花・葉のつくりを観察しよう」「野菜の果実はどこにできるか考えよう」</p> <p>○美術の授業 「野菜をスケッチしよう」「箸を作って、その箸で食べよう」</p> <p>○家庭科の授業 「収穫したものをを使って調理しよう」</p>	
成 果	昨年度よりも栽培する野菜の種類を増やすことで、果実がどこにできるか知ることができたり収穫の喜びを感じることができたりした。しかし、コロナ禍のため、収穫したものをを使った調理実習が思うように出来ず、家庭に持ち帰って味わってもらうことが多くなった。収穫物を持ち帰ることにより家庭で作った料理について話題にすることができた。
今後の課題	調理実習が実施できる機会を増やすために、調理内容や調理中のコロナ対策等検討することで、食に触れられるようにしたい。収穫体験の回数を増やすために苗を植える時期を変えられるように、野菜の種類を検討したい。野菜に対する苦手意識を減らすために、食べやすい野菜の種類を吟味したい。

(様式1 計画書)

### 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	南アルプス市立 白根東小学校	校 長 名	河住 悦久
-------	----------------	-------	-------

#### 児童生徒の課題

健康実態調査によると朝食を必ずとる児童の割合は95%を超える。好き嫌いはあるが、がんばって食べていると回答する児童が多い反面、保護者アンケートを見ると子供の好き嫌いを把握しているが、あえて食べさせてはいないと回答する保護者が大変多い。全校児童及び保護者の食に関するアンケートから、児童も保護者も食に関する正しい知識が十分ではなく、心身の成長や健康のために必要な栄養素を理解し、バランスの良い食事を考えたり食事の楽しさを知ったりすることができるようになることが課題である。

実 践 名	食べ物の働きを知ろう
目 標	○赤・黄・緑の仲間をしっかりとらえ、バランスよく食べる大切さを知る。 ○心身の成長や健康のために望ましい食事のとり方を身に付ける。
目標指標と数値	・「食べ物の働き（赤・黄・緑の仲間）」の認識を学年それぞれ8割以上になるようにする。 ・学んだ知識を生活に生かし、学年に応じた食の大切さを身に付ける。
実施予定日 ・実施予定期間	令和3年2学期
対 象	全校児童
指導場面	朝の学習時間、学級活動、給食の時間、教科（国語・生活科・保健・家庭科・社会など）・総合的な学習の時間
指 導 者	学級担任・養護教諭・栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
① 給食センターで給食を作ってくださいの職員の仕事内容を知り、感謝の気持ちをもつ。 ② 残飯の行方について学び、食べ物を大切にする気持ちをもつ。 ③ 「食べ物の働き」（赤の仲間・黄の仲間・緑の仲間）がわかる資料を教室や廊下で視覚化する。 ④ 「食べ物の働き」（赤の仲間・黄の仲間・緑の仲間）についての歌を知り、知識を深める。 ⑤ 食器の並べ方についてICT（クロームブック）を用い、操作しながら学ぶ。 ⑥ 給食便りや食に関する指導プリントによる啓蒙活動。 ⑦ 給食時間での放送を通して、食べ物の働きについて広報活動。 ⑧ 養護教諭や栄養教諭を指導場面に生かし、情報提供をしてもらう。 ⑨ 高学年は食品ロスの問題も取り上げる。（SDG s 学習） ⑩ 保護者向けにアンケートの結果を文書で発行し、食育に関する意識を高める。	
12月3日中巨摩食育公開授業・・・1年生と4年生の授業公開をする。	
評価方法	2学期の食育アンケート結果

(作成者名 笹本 弘子 校務分掌等 給食食育主任 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	南アルプス市立	白根東小学校	校 長 名	河住 悦久
-------	---------	--------	-------	-------

実 践 名	食べ物の働きを知ろう
目 標	○赤・黄・緑の仲間をしっかりとらえ、バランスよく食べる大切さを知る。 ○心身の成長や健康のために望ましい食事のとり方を身に付ける。
目標指標・数値	・「食べ物の働き（赤・黄・緑の仲間）」の認識を学年それぞれ8割以上になるようにする。 ・学んだ知識を生活に生かし、学年に応じた食の大切さを身に付ける。
実践後の数値 (評価方法)	「食べ物の働き（赤・黄・緑の仲間）」の認識について 1回目（6月 66%） → 2回目（1月 94%） (2回目の児童アンケートを取り、1回目と比較)
実施日 ・実施期間	1回目実施：令和3年 7月初旬 2回目実施：令和3年12月中旬
対 象	全校児童
指導場面	朝の学習時間、学級活動、給食の時間、教科（国語・生活・保健・家庭科・社会など）、総合的な学習の時間
指 導 者	学級担任・養護教諭・栄養教諭（南アルプス市北部給食センター）

## 具 体 的 な 内 容

- ① 給食センターから借りたDVDの視聴を通し、給食が作られるまでの様子や調理員の仕事内容を知り、今まで以上に給食を残さず食べる気持ちや調理員や食材の納入に関わる人などにも感謝の気持ちをもてるようになった。(給食センター・食材提供農家への感謝が向上)
- ② 赤・黄・緑の仲間に関する資料を校内（廊下・教室）に掲示し、視覚化した。
- ③ 「えいようのうた」（3つの色の食品・役割）を覚え、歌いながら3つの栄養素に含まれる食材を覚えることができた。
- ④ 低学年を中心におぼんの上の食器類の置き方を可視化した。クロームブックを活用し、お盆上に食材をマウスで動かす練習をした。
- ⑤ センターから配布される月ごとの資料も各学級で指導をし、専用ファイルに閉じ、学期末に学習内容を保護者にも還元した。
- ⑥ 給食の時間に献立発表と同時に赤・黄・緑の仲間の食品を発表した。
- ⑦ センターの栄養教諭を招聘し、学年ごと教科でT2として授業に参加してもらい、食への意識を深めた。また養護教諭や食育研究会に属する職員手作りの食に関するスライドを全校で視聴し、感謝の気持ちや「いただきます」「ごちそうさま」の意味、食事のマナー等を再確認することができた。
- ⑧ 高学年はSDGsについても扱い、食品ロスの分野の知識をもつことができた。
- ⑨ 児童や保護者アンケートの結果を通信にしたことで、親子で食に関する話題を提供できた。

成 果	中巨摩食育公開12月3日は、YouTube 配信となったが、この公開に向けて食についてさまざまな内容に取り組んだことで、食べることへの関心が高くなった。特に低学年はクロームブックの使い方を覚えながら食器の置き方やはしの持ち方なども意識できるようになった。高学年はSDGsについて知識を深めることができた。
今後の課題	本校が取り組んだ「食に関する知識」は、食教育のさわりだったのかもしれない。公開授業だからではなく、『食べること＝生きること』という言葉のもとで、給食センターとも連携して子供たちに食に関する情報を発信していきたい。

(作成者名 笹本弘子 校務分掌等 給食食育主任 )

(様式1 計画書)

### 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	北杜市立須玉中学校	校 長 名	興水 政仁
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

本校では、給食委員会の活動の一環で0の付く日に「残食ゼロの日」の取り組みを行っている。この取り組みで、日頃から給食当番は食缶の食材を盛り切る配食を意識するようになり、全校的な残量はとても少ない。しかし、ある特定の食材（野菜や果物等）を残す生徒が、わずかに見受けられる。今年度初めて実施した6月の残量調査の結果からも、副菜（汁もの含む）と果物の残食率が比較的高かった。成長期に必要な栄養を摂るという観点からも、自分にとって必要な摂取量を知り、残さず食べることの大切さを理解させることが必要である。

実 践 名	「食品ロス」削減のために、食べ残しを減らそう
目 標	「食品ロス」について知り、自分自身が今日からできることを考え、実行しようとする意欲をもつ。
目標指標と数値	残量調査での副菜（汁もの含む）・果物の残食率を0%に近づける。 (6月の残食率 副菜 1.8% 果物 1.8% )
実施予定日 ・実施予定期間	2学期
対 象	全校生徒
指導場面	給食の時間、朝活動の時間、給食委員会の活動
指 導 者	学級担任、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
【朝活動の時間】 ・「食品ロス」について知り、自分自身が今日からできることを考える。	
【給食の時間等】 ・給食センターの様子を映像で紹介し、調理員の思いを伝える。 ・おたより等を活用し、「地産地消」について伝える。	
【給食委員会の活動】 ・「残食ゼロの日」の取り組みを通して、引き続き食缶の中の食材を盛り切ることを意識して配食し、特に副菜と果物の残食を少なくすることを呼びかける。	
評価方法	給食残量調査（6月・11月）

(作成者名 島村 美紀 校務分掌等 栄養教諭 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	北杜市立須玉中学校	校 長 名	興水 政仁
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	「食品ロス」削減のために、食べ残しを減らそう
目 標	「食品ロス」について知り、自分自身が今日からできることを考え、実行しようとする意欲をもつ。
目標指標・数値	残量調査での副菜(汁もの含む)・果物の残食率を0%に近づける。 (6月の残食率 副菜 1.8% 果物 1.8%)
実践後の数値 (評価方法)	6月, 11月の給食残量調査より 副菜残食率 1.8% (6月) → <u>1.3%</u> (11月) ↓ 果物残食率 1.8% (6月) → <u>2.3%</u> (11月) ↑
実施日・実施期間	2学期・3学期
対 象	全校生徒
指導場面	朝活動の時間, 給食の時間等, 給食委員会の活動
指 導 者	学級担任, 給食主任, 栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p><b>【朝活動の時間】(第3学年対象)</b></p> <p>○「食品ロス」について考えようというテーマで、ICTを活用しながら10分間の指導を行った。</p> <p>①食品ロスとは何かを知る。</p> <p>②日本で1年間捨てられている食料はどれくらいの量か考える。(3択クイズ)</p> <p>③食品ロスを減らさなければならない理由を考える。(ハンガーマップ等)</p> <p>・食べ物の「いのち」をそまつにしないため ・地球環境を守っていくため</p> <p>④食品ロスを減らすためには、これからどんな工夫をしたらよいかを考える。</p> <p>⑤以前食品ロスについて考えた内容を知る。(4月にとったアンケートを振り返る)</p> <p>⑥事後アンケートに答える。(Formsを活用)</p> <p>・給食の食品ロスを減らすために、自分自身ができることを考える。</p> <p><b>【給食の時間等】</b></p> <p>○6月と11月の地場産物活用強化ウィークに、食育だよりで「地産地消」について伝えた。また、給食センターの調理の様子も紹介し、給食ができるまでにはたくさんの人々が関わっていることもあるので、感謝の気持ちをもって食べることを伝えた。</p> <p>○1月の学校給食週間で、「山梨の郷土食・特産品」について給食ひとくちメモと題して給食中での放送や、食育だよりにて周知した。</p> <p><b>【給食委員会の活動】</b></p> <p>○「残食ゼロの日」の取り組みを通して、引き続き食缶の中の食材を盛りきることを意識して配食し、他には副菜と果物の残食を少なくすることを呼びかけた。</p> <p>○「地場産物活用強化ウィーク」・「学校給食週間」中も残食を少なくすることを呼びかける放送を行った。</p>	
成 果	6月の調査結果と比べると、11月の全体の残食率の平均値が0.3%高くなってしまった(0.9%→1.2%)。特に6月に残食率が高めだった副菜(汁もの含む)・果物については、副菜は低くなったが、果物は高くなってしまった。果物の残食は学年が上がるにつれて多くなり、柑橘系の残食が目立った。
今後の課題	指導した直後は一時的に残食が減少するが、時間が経つと意識が薄れてしまうため、栄養面だけでなく「食品ロス」の観点からも残さず食べることがとても大切だということを定期的に伝えていきたい。今後も指導方法の工夫を行いながら、様々な角度から「食」について伝えていきたい。

令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲州市立大藤小学校	校 長 名	中村直人
-------	-----------	-------	------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"><li>・低学年は、好き嫌いが多くほとんど毎日残菜を出す児童がいる。</li><li>・高学年は、肥満傾向の児童の割合が高い。</li></ul>
---

実 践 名	赤・緑・黄の食べ物を、よく噛んで食べよう。
目 標	学年の実態に合わせて、「バランスよく食べる」「よく噛んで食べる」指導を行い、児童各自の食習慣の改善を促す。
目標指標と数値	低学年は、「苦手なものも少し食べる」ことを意識している児童9割以上。 高学年は、「30回噛んで食べる」ことを意識している児童9割以上。
実施予定日 ・実施予定期間	令和3年8月～令和4年3月
対 象	全学年児童並びに保護者
指導場面	給食の時間、学級指導、家庭科・生活科・総合的な学習の時間など各教科、学校からの便り（配布物）
指 導 者	学校長、学級担任、養護教諭、給食センター栄養士
具 体 的 な 内 容	
①給食指導……………	給食センターの栄養士の訪問時に食に関する話をする。 (月1～2回)学級担任の指導。
②特別活動……………	甲州市食育ノートを使い、学級担任が食育指導を行う。
③食育だより……………	食育に関するおたよりの発行。家庭への啓蒙を図る。
④教科や保健との連携…	栽培活動や調理実習などを通して、各教科と食に関する指導を関連付け、食物への愛着や感謝の心を育てる。また、「よく噛むこと」や「バランスよく食べること」が、健康面でどのような良さがあるのか、養護教諭と連携して児童に発信する。
評価方法	授業後、甲州市食育ノートからの見とり。 アンケート（第1回8月、第2回2月）の結果から、児童の意識の変容を見る。

(作成者名 中村千春 校務分掌等 給食担当 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲州市立大藤小学校	校 長 名	中村 直人
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	赤・緑・黄の食べ物を、よく噛んで食べよう。
目 標	学年の実態に合わせて、「バランスよく食べる」「よく噛んで食べる」指導を行い、児童各自の食習慣の改善を促す。
目標指標・数値	低学年は、「苦手なものも少し食べる」ことを意識している児童9割以上。 高学年は、「よく噛んで食べる」ことを意識している児童9割以上。
実践後の数値 (評価方法)	「苦手なものも少し食べる」ことを意識している低学年児童9割以上 「よく噛んで食べる」ことを意識している高学年児童9割以上 (2月実施アンケート結果)
実施日 ・実施期間	9月～2月
対 象	全学年児童並びに保護者
指導場面	給食の時間、学級指導、家庭科・生活科・総合的な学習の時間など各教科、学校からの便り(配布物)
指 導 者	学校長、学級担任、養護教諭、給食センター栄養士
具 体 的 な 内 容	
<p>①給食指導……………給食センターの栄養士の訪問時に食に関する話をしてもらった。 食べ方や栄養やマナーに関する学級担任の日常的な声かけや指導。</p> <p>②特別活動……………甲州市食育ノートを使い、学級担任が食育指導を行った。</p> <p>③食育だより……………食育に関するおたよりを発行し、家庭への啓蒙を図った。</p> <p>④教科や保健との連携…小規模校であることを生かし、栽培活動や調理実習なども感染症対策を講じながら行った。児童が食物を自分で育て、作ることで愛着や感謝の心が育つよう配慮した。また、歯の日に「よく噛むこと」や「バランスよく食べること」が、健康面でどのような良さがあるのか、保健だよりで発信した。</p>	
成 果	アンケート(2月)の結果から、低学年では「初めて見る食べ物は絶対に食べたくない」と答えていた児童がいなくなり、高学年では「食べ物を飲み込むように食べてしまう」「食べるのがまわりより早い」と答えていた児童がそれぞれ1人、2人と少数ながら少なくなり、「よく噛んだ方がいい」という意識の変容が見られた。
今後の課題	高学年になるにつれ、食わず嫌いが減っていく様子がアンケートから伺えた。今後も給食で様々な食材を口にし、食べることへの興味・関心が高まる指導を継続して行うことで、低学年の偏食傾向が徐々に改善するよう努めたい。

(作成者名 中村 千春

校務分掌等 給食主任 )

(様式1 計画書)

### 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲州市立塩山中学校	校 長 名	吉澤 直樹
-------	-----------	-------	-------

#### 児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"><li>・学校生活において給食の時間を楽しみにし、献立の内容に関心が高い様子は見受けられるが、「麦ごはん」を主食とした和食の献立は、喫食時間が長くかかり、残食量が多い状況が続いている。それに比べて、中華料理や洋食の献立は短い時間で食べ終え、残食量が少ない傾向である。</li><li>・家庭の食卓に郷土料理が上る機会は少なくなってきたようで、給食で初めて食べる郷土料理や地場産物がある。</li><li>・新鮮で栄養豊富、安心して食べられる地場産物とその地場産物を多く使用して作られてきた郷土料理は、昔から人々の暮らしや命をつないできたものであることを理解している生徒は少ない。</li></ul>
---

実 践 名	給食をとおして山梨県の郷土料理や地場産物について知ろう
目 標	地域に適した地場産物やそれを使った食文化を大切にしていこうという気持ちを育てる
目標指標と数値	郷土料理や地場産物の献立を活用した指導を毎月1回以上実施
実施予定日 ・実施予定期間	毎月1回（食育の日）、地産地消給食の日等
対 象	全校
指導場面	給食の時間
指 導 者	給食主任、学校栄養職員、給食委員会
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"><li>・給食時間…給食委員会から、郷土料理や地場産物についての紹介を行い、由来や特徴などを理解させ、食べ物への感謝の気持ちをもって残さず食べようとする意欲を育てる。</li><li>・食育だより…毎月給食に登場する郷土料理や地場産物の紹介を掲載し、家庭への啓蒙を図る。</li><li>・資料掲示…食への関心や理解が進むよう、写真や絵、クイズなどを取り入れた資料を掲示する。</li></ul> <p>学校給食に地場産物や郷土料理が取り入れられているのは、地域に伝わる食文化を大切に、健康を維持し、命をつないでいくという意図があることを伝えられる実践としていきたい。</p>	
評価方法	給食時間の喫食の様子や残食量から、地場産物や郷土料理は、昔から人々の暮らしや命をつないできたものであることまで理解し、残さず食べようとする意欲を見取る。

(作成者名：小林智子 校務分掌等：学校栄養職員)

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲州市立塩山中学校	校 長 名	吉澤 直樹
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	給食をとおして山梨県の郷土料理や地場産物について知ろう
目 標	地域に適した地場産物やそれを使った食文化を大切にしていこうという気持ちを育てる
目標指標・数値	郷土料理や地場産物の献立を活用し毎月1回以上紹介をしていく
実践後の数値 (評価方法)	毎月1回以上郷土料理や地場産物の献立が出た給食時間に、その由来や特徴などを紹介する
実施日 ・実施期間	毎月1回(食育の日)等
対 象	全校生徒
指導場面	給食の時間
指 導 者	給食主任、学校栄養職員、給食委員会
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食時間…給食委員会から、郷土料理や地場産物についての紹介を行い、由来や特徴などを理解させ、食べ物への感謝の気持ちをもって残さず食べようとする意欲を育てる。</li> <li>・食育だより…毎月給食に登場する郷土料理や地場産物の紹介を掲載し、家庭への啓蒙を図る。</li> <li>・資料掲示…食への関心や理解が進むよう、写真や絵、クイズなどを取り入れた資料を掲示する。</li> </ul>	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月食育の日(19日)に合わせて、山梨県の郷土料理や地場産物(特産品)に関わる由来・特徴などを紹介する資料を作成し、給食時間に委員会の生徒が資料を読み上げ給食を食べることで、料理や食材に対する関心を高めることができた。また、歴史をふまえた食文化や地域の特性などを知る機会となった。</li> <li>・食育だよりを通して、郷土の食文化や食材の特徴などを紹介することができた。</li> <li>・写真やクイズをとり入れた資料を掲示することで、関心をもって食材について学ぶことができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食時間に料理や食材についての資料を読み上げ紹介する計画ではあったが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、3学期は実施できなかった。放送や動画などを活用する方法も考えていきたい。</li> <li>・食育だよりを通して、献立の調理方法も紹介できると、より郷土料理や地場産物を家庭に広めることができた。</li> <li>・写真やクイズの資料は生徒の関心を高めることができるが、数回しか実施できなかったため、計画的に発信できる資料作りが必要だ。</li> </ul>

(作成者名 小林智子 校務分掌等 学校栄養職員 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	市川三郷町立 大塚小学校	校 長 名	丹沢 貴浩
-------	--------------	-------	-------

## 児童生徒の課題

普段食べ慣れない食材への躊躇や、苦手な食材に挑戦する意欲等、これまで食べ物に対して表出していた本校の課題も、近年徐々に改善傾向にある。

本校では、地域の特産物として知られている「大塚人参」の栽培・収穫体験を毎年行い、給食の献立とタイアップさせる取り組みを行っている。これらを通して、食物を作って下さる人や食事を用意して下さる人への感謝の気持ちを育み、食物を無駄にしない心を大切にできるよう、体験活動を通じた取り組みを継続していく必要があると考える。

実 践 名	大塚人参の栽培体験を通じた食育活動
目 標	地域でとれる大塚人参について知り、調理への生かし方を学ぼう
目標指標と数値	実施回数3～4回
実施予定日 ・実施予定期間	①6月21日(月) ②11月30日(火) ③12月中旬
対 象	全校
指導場面	総合的な学習の時間、給食の時間
指 導 者	各担任、町役場産業振興課農林係の方々
具 体 的 な 内 容	
<p>①6月21日(木)：3年～6年 総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場産業振興課農林係の方々を講師に招き、大塚人参の種まきをする。</li> <li>・感想を作文に書く。</li> </ul> <p>②11月30日(火)：3年～6年 総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場産業振興課農林係の方々を講師に招き、大塚人参の収穫をする。</li> <li>・感想を作文に書く。</li> <li>・収穫した人参の一部を給食センターへ届ける。</li> </ul> <p>③12月上旬～中旬：全校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した大塚人参を使った人参ご飯を給食で食べる。</li> <li>・普通の人参との比較した大塚人参の栄養価を知ること、調理への生かし方を考える。</li> <li>・収穫し、持ち帰った人参の活用方法を共有することで、食事を準備することへの意欲を育てる。</li> </ul> <p>上記の活動を通して、地元の特産品に対する興味・関心を高め、作物を育てる方・食事を準備してくれる方への感謝の気持ちや食物を無駄にしない心を育てる。</p>	
評価方法	種まき～収穫時、給食時の児童観察 児童の感想からの読み取り、担任からの聞き取り

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	市川三郷町立 大塚小学校	校 長 名	丹沢 貴浩
-------	--------------	-------	-------

実 践 名	大塚人参の栽培体験を通じた食育活動
目 標	地域でとれる大塚人参について知り、調理への生かし方を学ぼう
目標指標・数値	実施回数3～4回
実践後の数値 (評価方法)	種まき～収穫時、給食時の児童観察 児童の感想からの読み取り、担任からの聞き取り
実施日 ・実施期間	①6月21日(月) ②11月30日(火) ③12月3日(金)
対 象	①:3年生 ※感染症流行により予定対象学年3～6年生より縮小 ②:3～6年生 ③:全校
指導場面	総合的な学習の時間、給食の時間
指 導 者	各担任、町役場産業振興課農林係の方々
具 体 的 な 内 容	
<p>①6月21日(月):3年 総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場産業振興課農林係の方々を講師に招き、大塚人参の種まきをする。</li> <li>・感想を作文に書く。</li> </ul> <p>②11月30日(火):3年～6年 総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場産業振興課農林係の方々を講師に招き、大塚人参の収穫をする。</li> <li>・感想を作文に書く。</li> <li>・収穫した人参の一部を給食センターへ届け、一人3～4本の人参を家庭へ持ち帰る。</li> </ul> <p>③12月3日(金):全校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した大塚人参を使ったメニュー(大塚人参めし)を給食で食べる。</li> <li>・大塚人参の栄養価について学ぶ。(栄養教諭の協力を得て、給食のおたよりに普通の人参との栄養価の比較を掲載)</li> </ul> <p>上記の活動を通して、地元の特産品に対する興味・関心を高め、作物を育てる方・食事を準備してくれる方への感謝の気持ちや食物を無駄にしない心を育てる。</p>	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場産業振興課農林係の方々や栄養教諭の協力を得ながら、地域の特産物である大塚人参に親しむことができた。また、栄養教諭や給食センターとの事前調整により、素材の味を感じられる献立として「大塚人参めし」を提供してもらい、種まき～給食での喫食という連続性のある取り組みができた。</li> <li>・種まきや収穫をする際、実際に触れた土の特徴から大塚人参の長さの秘密も教えてもらい、大塚人参に対する興味や関心が深まった様子を感想から読み取ることができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数が減少してきているため、今後も継続して実践できるよう、来年度以降は全ての活動を全校で取り組んでいくことを前向きに検討している。</li> </ul>

(様式1 計画書)

### 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	富士吉田市立吉田小学校	校 長 名	堀内 博文
-------	-------------	-------	-------

#### 児童生徒の課題

<p>本校の今年度の「新体力テスト生活習慣健康チェックアンケート」によると、児童の朝食摂取率は毎日食べる90%、時々食べない・毎日食べないが10%となっている。</p> <p>「1日の睡眠時間について」という質問項目に対して、8時間以上睡眠をとっている児童の割合は57%という結果だった。</p> <p>本校の給食フードロスは、2ヶ月間(6月・7月)で牛乳が741本(1日1クラスあたり1.2本)・パンの残食が37.1kg(1回1クラスあたり185.5g÷4個)と多く、課題となっている。</p>
--

実 践 名	早寝早起き朝ご飯！フードロスを減らそう！
目 標	<ul style="list-style-type: none"><li>・早寝早起きをする児童数を増やす。</li><li>・朝食摂取率・給食完食率を上げる。</li><li>・フードロス(牛乳・パン)を減らす。</li></ul>
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"><li>・8時間以上睡眠をとっている児童の割合：現状57%→65%</li><li>・朝食摂取率：現状90%→95%</li><li>・フードロス(牛乳各クラス現状1.2本→1本) (パン各クラス現状4個→3個)</li></ul>
実施予定日 ・実施予定期間	① 年間 ② 強化月間→2学期(令和3年9月7日～9月14日)
対 象	小学校全児童(582人)
指導場面	朝・帰りの会・給食時間
指 導 者	学級担任・給食委員会・給食主任・栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>○牛乳(毎日)とパン(火曜日・木曜日)の残食数を計測し、指導に生かしていく。</p> <p>○給食委員会から、フードロスの実情を学期に1回、各クラスに伝えていく活動を行う。</p> <p>○8・9月の指導資料で規則正しい生活、食生活をするように学級指導を行う。(各クラス担任)</p> <p>○「早寝早起き朝ご飯、給食がんばり表」を作成し、全校児童に配布し、一人一人が振り返る。</p> <p>○給食委員会が放送で「ちゃんとたべよう体操」を流し、全校への呼びかけを行う。</p> <p>○基本的には量は調節せず、最初に盛り付けたものを完食したかどうかを見る。</p> <p>○励ましたり、褒めたりして、苦手な食べ物にチャレンジする姿勢を育てるよう指導する。</p> <p>○喫食時間を確保するように工夫する。</p>	
評価方法	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・牛乳とパンの残食数を集計する。</li></ul> <p>【強化月間】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・カードで一人一人の評価を行い、集計する。</li><li>・集計した結果の様子を給食便りで全校に知らせる。</li></ul>

(作成者名 杉山 みのり 校務分掌等 給食主任 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	富士吉田市立吉田小学校	校 長 名	堀内 博文
実 践 名	早く寝て、おいしい朝食を食べよう！給食をできるだけ完食しよう！		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝早起きをする児童数を増やす。</li> <li>・朝食摂取率・給食完食率を上げる。</li> <li>・フードロス（牛乳・パン）を減らす。</li> </ul>		
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8時間以上睡眠をとっている児童の割合：現状 57%→65%</li> <li>・朝食摂取率：現状 90%→95%</li> <li>・フードロス：牛乳各クラス 1.2本→1本へ）（パン各クラス 4個→3個へ）</li> </ul>		
実践後の数値 （評価方法）	<p>評価方法「早寝早起き朝ごはん、給食がんばり表」の集計で評価。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8時間以上寝た児童の割合 75%（できた75% もう少し18%）</li> <li>・朝食接種率 92%（できた92% もう少し6%）</li> <li>・フードロス（給食を完食する児童の割合） 73%（できた73% もう少し18%）</li> </ul>		
実施日・実施期間	令和3年9月28日（金）～10月4日（金）		
対 象	全校児童		
指導場面	朝・帰りの会 給食時間		
指 導 者	学級担任 給食委員会 給食主任 栄養教諭		
具 体 的 な 内 容			
<p>○6月にパンと牛乳の給食室に持ち込まれる校内全体の残食量を調べた。捨てられる大量のパンや牛乳の写真をお便りにして配布し、フードロスについて考える機会を設けた。クラスごとの数値は学級の負担を考え調べることができなかった。</p> <p>○8・9月の給食指導資料で規則正しい生活、食生活をするように学級指導を行った。</p> <p>○給食委員会が放送で「ちゃんと食べよう体操」の曲を流し、全校への呼びかけを行った。</p> <p>○励ましたり、褒めたりして、苦手な食べ物にチャレンジする姿勢を育てるよう指導した。</p> <p>○喫食時間を確保するように心がけた。</p> <p>○給食委員会が中心となり「早寝早起き朝ごはん給食がんばり表」を使った全校児童対象の実態調査を行った。一人一人が、自分の睡眠時間と朝食、給食について振り返った。</p> <p>集計は給食委員会で行い、集計結果を表にまとめ前項に発表した。各学級の集計も配布し反省や指導に役立ててもらった。</p>			
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田小学校で1か月に捨てられる牛乳は約500本、パンは21kg。揚げパンや、ミルメークの日はほとんど残らないが、普段は口もつけずに残す児童が1日30人以上いる。という実態を明らかにできた。給食を残さず食べようという意欲付けになった。</li> <li>・「がんばり表」の実施を通し、これからも残さず食べたいと前向きな感想を持った児童が多く見られた。</li> </ul>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関しては、好き嫌いの個人差があること、家庭環境による差があること、発達段階による差があることなど、多くのファクターが関わるため、効果的な指導を見つけにくいこと。</li> <li>・近年は、ネットゲーム等で夜遅くまで起きていて、朝の体調不良を訴える児童が増加傾向にある。家庭と連携した取り組みが重要だと理解しているが、実現が難しいこと。</li> </ul>		

(作成者名 中野 彰 校務分掌等 給食主任 )

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	富士吉田市立明見中学校	校 長 名	小幡 浩
-------	-------------	-------	------

## 児童生徒の課題

○明見中学校の生徒は給食をととてもよく食べていて、市内他校に比べて残食が少ない。しかし、生徒の「残さず食べよう」という意識が高いわけではなく、学級担任の給食時間の指導が行き届いていることにより、残食が少ないというのが現状である。

実 践 名	明中アクション「私たちにできるSDGs」
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残食（食品ロス）を減らすことが持続可能な社会に貢献できることを学ぶ。</li> <li>・給食の残食を減らす。</li> <li>・給食だけでなく、家庭や、さらに将来に渡って食品ロスについて考えることのできる生徒を育成する。</li> </ul>
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残食量の変化</li> </ul> （取り組み前1週間の残菜量を100とした場合、取り組み後の1週間の残菜量が50になることを目標とする。）
実施予定日 ・実施予定期間	2020年8・9月（学園祭期間中）
対 象	全校
指導場面	生徒会活動時間、給食の時間
指 導 者	生徒会主任、学級担任、学年所属の先生、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>&lt;5・6月&gt;</p> <p>○生徒会を中心に学園祭準備期間（8・9月）の学校生活について目標を立てる。</p> <p>&lt;8・9月&gt;</p> <p>○前半 ・8月24日～8月30日の5日間の明見中学校の残食を計量する。</p> <p>○中間 ・富士吉田市内の小中学校で毎日どのくらいの残食量が出ているか、それと比較して明見中学校がどれくらいの残食量か学ぶ。</p> <p>・8月31日～9月2日の期間に食品ロス・SDGsについて給食時間などを通して指導する。</p> <p>○後半 ・9月3日～9月9日の5日間の明見中学校の残食を計量する。</p> <p>・後半の残食量は日々グラフに示す。</p> <p>臨時食育だよりで食品ロスについてのプリントを配布したり、生徒会通信で経過報告を行う予定。</p>	
評価方法	・給食の残菜量の変化

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	富士吉田市立明見中学校	校 長 名	小幡 浩
-------	-------------	-------	------

実 践 名	明中アクション「私たちにできるSDGs」
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残食（食品ロス）を減らすことが持続可能な社会に貢献できることを学ぶ。</li> <li>・給食の残食を減らす。</li> <li>・給食だけでなく、家庭や、さらに将来に渡って食品ロスについて考えることのできる生徒を育成する。</li> </ul>
目標指標・数値	・残食量の変化（取組前の残食量の半分の量を目標とする。）
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み後の一日あたりの残食量は、取組前の一日あたりの残食量の31.9%であり、約7割の食品ロスの削減ができた。</li> <li>・世界の食糧問題について考えるきっかけとなった生徒の割合 93.9%</li> </ul>
実施日 ・実施期間	令和3年8月～9月
対 象	全校生徒
指導場面	生徒会活動時間、給食の時間
指 導 者	生徒会主任、学級担任、学年所属の先生、給食主任、栄養教諭

## 具 体 的 な 内 容

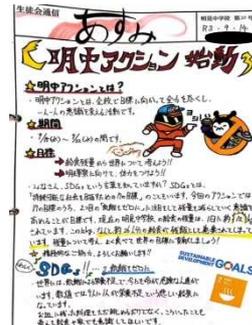
## &lt; 残食量調査・期間中取組 &gt;

取組前 : 8月24日～8月30日の5日間の残食を軽量。結果、一日当たり11.9kgの残食。

取組期間 : 9月15日～9月21日の5日間の残食を計量。結果、一日当たり3.8kgの残食。

(計画では9月3日～9月9日の5日間だったが、コロナウイルス感染拡大により学校行事延期に合わせて、明中アクションも日程変更した。)

- ・生徒会通信を通して、SDGsという言葉の意味や、取組への声掛けを行った(右図)。
- ・学級の代表が給食中に「食べきりましょう」等声掛けを行っていた。



## &lt; 事後アンケートの実施 &gt;

Q.明中アクションについて、普段より食べ残しを減らそうと意識しましたか？

Q.明中アクションについて、世界の食糧問題について考えるきっかけになりましたか？

成 果	生徒会を中心に学校全体で取り組むことによって、残食量を大幅に減らすことができた。また数値的な結果だけでなく、世界の食糧事情について意識した生徒が多くいて、とても良い取り組みとなったと感じる。
今後の課題	取り組みの期間は学校全体で意識できていたが、取り組みが終わると徐々に残食が目立つ日も出てきた。今後も取り組みを継続していきたい。

令和3年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	上野原市立島田小学校	校 長 名	佐野 良
-------	------------	-------	------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"><li>・野菜嫌いや食べず嫌い、好き嫌いが目立つ児童や、食に偏りがある児童が見られる。</li><li>・昨年度の食育の取り組みを通して、よく噛むことの大切さを感じ意識している児童も多いが時間が経つと意識が薄れてしまう児童が多い。</li><li>・昨年度の肥満傾向児出現率 8.2% (高度肥満 0%、中等度肥満 4.1%、軽度肥満 4.1%) →今年度の肥満傾向出現率 9.1% (高度肥満 0%、中等度肥満 5.5%、軽度肥満 7.3%)</li><li>・昨年度の歯科検診結果より (う歯未処置の割合 27%、治療率 85%)</li></ul>
---

実 践 名	食べて育てる心と体 ～好き嫌いせずよく噛もう～
目 標	食事の重要性や喜び、楽しさを理解し、好き嫌いせずいろいろなものをよく噛んで食べることができるようにする。
目標指標と数値	①嫌いな食べ物も1口以上食べることができる ②肥満傾向出現率の改善、中等度肥満傾向児を高度肥満にしない ③う歯治療率90%
実施予定日 ・実施予定期間	2・3学期
対 象	全校児童
指導場面	保健給食委員会の活動、食育集会、学級活動、給食の時間、個別保健指導・健康相談
指 導 者	担任、栄養教諭、養護教諭
具 体 的 な 内 容	
○実態把握のための食習慣に関するアンケートの実施 (8月・2月) ○保健給食委員会による食育活動 ・リクエスト給食に向けた献立作成の取り組み (6・7月) ・食育集会 (集会の具体的内容については、今後委員会で相談の上決定) ○給食の時間に栄養教諭による食に関する指導の実施 ○栄養教諭から出される指導資料を活用した学級での指導 ○肥満傾向児への養護教諭による個別指導・健康相談、保護者との個別面談 ○歯と口の健康づくりを中心とした養護教諭による保健指導の実施 ・各学級での歯科保健指導や発育測定前の時間を活用し食育へもアプローチする。 ○食育に関する掲示物を保健室前や職員室前に掲示	
評価方法	①事前事後アンケートの結果や集会等の取り組み後の児童の感想と変容を見る。 ②健康診断、発育測定から受診率や推移をみる。

## 令和3年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	上野原市立島田小学校	校 長 名	佐野 良
-------	------------	-------	------

実 践 名	食べて育てる心と体～好き嫌いせずよく噛もう～
目 標	食事の重要性や喜び、楽しさを理解し、好き嫌いせずいろいろなものをよく噛んで食べることができるようにする。
目標指標・数値	①嫌いな食べ物も1口以上食べることができる ②肥満傾向出現率の改善、中等度肥満傾向児を高度肥満にしない ③う歯治療率90%
実践後の数値 (評価方法)	①アンケート結果(実践前→実践後) (1)嫌いな食べ物のごはんに出てきたら食べるようにしている 64.2%→68.1% (2)ゆっくりよく噛んで食べることは大切だと思う 69.2%→80.9% (3)ごはんを食べることは楽しいと思う 55.8%→67.4% ②肥満傾向児出現率 今年度の肥満傾向出現率 9.1% (高度肥満 0%、中等度肥満 5.5%、軽度肥満 7.3%) →1月 12.7% (高度肥満 0%、中等度肥満 5.6%、軽度肥満 7.2%) ③う歯治療率 70%
実施日・実施期間	令和3年6月～令和4年2月
対 象	全校児童
指導場面	保健給食委員会の活動、学級活動、給食の時間、個別保健指導・健康相談
指 導 者	担任、栄養教諭、養護教諭

## 具 体 的 な 内 容

- 実態把握のための食習慣に関するアンケートの実施(8月・2月)
- 保健給食委員会による食育活動 ・リクエスト給食に向けた献立作成の取り組み(6・7月) ・食育集会
- 給食の時間に栄養教諭による食に関する指導の実施 ○栄養教諭から出される指導資料を活用した学級での指導
- 肥満傾向児への養護教諭による保護者との個別面談
- 歯と口の健康づくりを中心とした養護教諭による保健指導の実施  
・各学級での歯科保健指導や発育測定前の時間を活用し食育へもアプローチする。
- 食育に関する掲示物を保健室前や職員室前に掲示

成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「好き嫌いせず食べることの大切さ」「よく噛むことの大切さ」をテーマに保健給食委員会で食育集会を行った。赤・黄・緑の働きをについての動画を作成した。食べ物には大切な働きがあることを知り、嫌いなものも一口でも食べてみようと思ったという感想がたくさんあった。また栄養教諭から3色の食べ物の働き、よく噛んで食べることの大切さについて専門的に学ぶことができた。</li> <li>・2月のアンケート結果では嫌いな食べ物が出てきたら食べるようにしているの割合は3.9%増加した。また、噛むことや食べることの楽しさについても数値が増加している。食育集会などから食についての意識が高まった成果だと考える。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会等の取り組みから食への意識を高めることができたが、時間が経つと意識が薄れてしまう現状がある。今後も様々な機会を通して継続的に指導していく必要がある。う歯の治療率が中々上がらなかったこと、肥満傾向児童の割合が上がってしまったことが課題である。保護者にも声かけをし連携を図りたい。</li> </ul>